

# 草の根・人間の安全保障無償資金協力

## 「リロングウェ県マチェンチェ小学校給食用灌漑設備・炊事場整備計画」 署名式

2019年3月5日



写真左：（左から）コンドワニ・FISD 代表，柳沢大使

写真右：（左から）カチグンダ教育省学校栄養局長，コンドワニ・FISD 代表，柳沢大使

2019年3月5日、柳沢香枝大使とコンドワニ・「灌漑と持続可能な開発のための財団(FISC)」代表は、「リロングウェ県マチェンチェ小学校給食用灌漑設備・炊事場整備計画」に関する草の根・人間の安全保障無償資金協力贈与契約を締結しました。本贈与契約署名式は在マラウイ日本国大使館で行われ、カチグンダ教育省学校栄養局長も列席しました。

マラウイが直面している課題は多面的であり、多くの場合、単一セクターでのアプローチは機能しにくいのが現状です。初等教育において入学児童数は増加してきましたが、食べ物が十分でないせいで学力低下や欠席につながっています。このため、国家栄養政策などマラウイ政府は様々なセクターの関わりを前提とする政策を策定しています。マチェンチェ小学校も例外ではなく、特に12月から3月頃の食料不足の時期は、家計を助けるために学校を休んで働く児童も多く、成績低下の要因となっています。

本事業は、以上の状況をふまえて、給食事業に必要な灌漑及び炊事場を整備することで、地域住民が継続的に児童への給食提供を可能にし、児童の欠席率の低下及び学習効果の向上に寄与することを目的としてFISCに対して40,971米ドルの供与を行うものです。学校は、これらの設備を活用して野菜やその他換金作物を生産・販売し、その利益によって学校給食を提供することになります。

スピーチの中で柳沢大使は、このプロジェクトの真の裨益者は地域住民であり、プロジェクトを通じて生産される野菜について明確な販路やビジネス志向のマインドセットが関係者および地域住民に必要であり、FISCにはこの目標にコミットして欲しいと強調しました。